研究

佐伯市戦後五十年史（二七）
―昭和四十年代の社会・文化・スポーツ―

矢野彌生
（会員　佐伯市中山区）

〈前号〉
二六　昭和四十年代の社会・文化・スポーツ（続）
（三）公害

（四）佐伯の文化

佐伯文化会館　〈待望の文化施設〉　佐伯市民が待ちの建設望んでいた佐伯文化会館が、昭和四十六年（一九七一）十一月一九日、市制施行三十周年に、文化会館落成の記念式典が挙行された。建設された文化会館の状況を『佐伯市史』[1]は、詳細を次のように伝えている。

今から百年前までは佐伯藩二万石の城館のあった三の丸に、待望の文化会館が建設された。東京都の梓建築（佐伯市出身の清田文永氏）の設計、大分市佐藤組の施行で満一か年を費やして完成した。鉄筋四階建、白亜の会館は、一階は中ホールをはじめ、結婚式場・会議室・食堂・事務室など、二・三階は観客千三百人を収容できる大ホール、四階は資料室となっている。

会館の中心である大ホールの観客席・舞台関係工事は福岡市のサンケンエンジニアリング会社により、舞台どんちょうは、大入島「神の井」・神武天皇御舟泊の物語りを主題としたユニークなもので、郷土の画家菅一郎画伯の原画「いずみ」をもとに、京都で制作したものである。

総工費三億九千万円余、豪華けんらんたる文化の殿堂が竣工した（中略）。

この文化会館は、単に佐伯市の中央公民館という性格だけでなく、佐伯市及び南海部郡十万人の人々に、はるばる中央一流人の芸術や文化を招へい提供し、地域社会の各種集会の場としてなくてはならないものになっている。

文化会館は、現在は佐伯市教育委員会に所属、館長ほか七名の職員によって運営されている。

佐伯文化会館は、文化的事業の中核施設となっており、また、中央公民館としての役割を果たしている。

落成した佐伯文化会館

〈佐伯史談会の活動・花開く成果〉

『佐伯市史』の編さん事業　昭和四十九年五月一日、ついに佐伯市にとっては初めての本格的な市史が発刊される。当時の市長であった池田利明氏は、市史の序文で（前略）「市民のみなさんからの編さんの要望も強く、私としても先人の業績をしのび、その発展の跡を明らかにすることは、市の今後いっそうの発展を図るうえにきわめて有意義なことと考え、昭和四十六年、市制施行三十周年を迎えるにあたり、これを記念して『佐伯市史』の編さんに着手しました。以来二年有余、ここにようやく『佐伯市史』の発刊をみるにいたりました（以下略）。」と述べている。

市史は四編で構成されており、第一編佐伯市の概観（自然と環境・世帯数と人口・佐伯市の成り立ち）、第二編時代編（原始・古代史・中世史・近世史・近代史）、第三編現代編（概説・政治・産業と経済・教育・文化体育・社会）、第四編はその他（文化財と観光・人物志・佐伯と独歩・宗教と社寺・神話と伝説・習俗と年中行事・方言・地名の変遷・郷土特産品と名物食べもの・郷土史年表）となっており、市史としては全分野をまとめ

た記述であり、すばらしい内容となっている。

『佐伯市史』は市民にとって楽しく読めるものになっており、また、佐伯市だけでなく、南海部郡全域にわたって記述するという広い視野に立った姿勢がみられる。編さん着手以来、二年有半という短期間で完成されており編さん委員の御努力に感謝・敬意を表したい。

最後に、市史編さんに参加された佐伯史談会の会員の氏名をあげておきたい。

佐伯市史編さん委員会

委員長　山内　武麒
副委員長　高木　嘉吉
事務局長　羽柴　弘
委員　岩田　善市
委員　清田　義雄
委員　佐脇　貫一
委員　染矢　勘蔵
委員　平川　清
委員　後藤　知久
委員　市野　瀬仁
委員　官　義雄

委員　加藤　健一

主要文化団体の活動

〈昭和四十年代の文化団体〉

昭和四十年代に発足した主な文化団体をあげると、佐伯農業高校の地理同好会（昭和四十四年）・邦楽（四十六年）・演劇（四十六年）・佐伯子ども劇場（四十六年）・佐伯観劇友の会（四十六年）・堅田踊り保存会（四十年）・佐伯文化団体連絡協議会（四十三年）・佐伯文化振興会（四十六年）などがある。そのほか、昭和二十年代、三十年代に発足し、昭和四十年代も継続している文化団体も多い。

〈佐伯合同短歌会〉　昭和二十六年に第一回歌集「椎の実」を発行して以来、毎年のように発行。昭和四十年代も一年に一冊を続けて発行している。歌集名をあげると次のとおりである。

・田鶴音浜（昭和四十年）・佐伯城山（昭和四十五年）
・九　峰（昭和四十一年）・蒲戸崎（昭和四十六年）
・波当津（昭和四十二年）・椿　山（昭和四十七年）
・元越山（昭和四十三年）・宇戸崎（昭和四十八年）
・三の丸（昭和四十四年）・妙　見（昭和四十九年）

〈佐伯市書道協会〉　昭和四十三年（一九六八）に結成。県書道協会の有力なメンバーとして活躍、毎年春秋二回の書道展、書道講習会も計画して活動している。会長森上紫陽・副会長臼井龍峰はともに日展入選者である。

〈邦楽〉　昭和四十六年に「藤花会」が結成された。会長は高藤祐子。宮城会全国大会・ロータリー演奏会・県演奏会など多方面にわたり活動している。

〈演劇〉　高校演劇部は鶴城高校と豊南高校にあり、いずれも大分県高等学校文化連盟に加入している。昭和四十六年（一九七一）には中央演劇祭に参加し、好成績を示したが、四十七年には豊南高校が杵築・大分とともに優秀三校に数えられている。

〈佐伯観劇友の会〉　昭和四十六年発足。定期の演劇鑑賞会・例会以外の舞台芸術鑑賞などを行ない、機関誌を発刊。会長は土屋睦治。

〈盆踊〉　上堅田下城に堅田踊保存会がある。昭和四十年発会した。

〈佐伯農業高校の地理同好会〉　昭和四十四年六月に地理同好会を結成、顧問矢野彌生。さらに、大分県高等学校教育研究会社会部会（昭和四十二年発足）に加盟し、文化部として活動をはじめる。地理同好会は毎年研究テーマを決定し、県大会で研究発表。また、『県南の地理』の名称で研究冊子を毎年発刊している。

次に『県南の地理』の研究テーマと発刊年をあげる。

・創刊号（佐伯市の園芸農業）　昭和四十四年度
・第2号（鶴見半島の地域調査）　昭和四十五年度
・第3号（大分県南部の茶業について）　昭和四十六年度
・第4号（大分県南のみかんについて）　昭和四十七年度
・第5号（大分県南の水産養殖について）　昭和四十八年度
・第六号（大入島の地理）　昭和四十九年度

『県南の地理』創刊号

〈佐伯鶴城高校新聞部〉 昭和四十六年・四十七年高文連新聞コンクール特選・四十八年に全国高校新聞コンクールで最優秀賞。

〈佐伯豊南高校新聞部〉 昭和四十三年第19回西部日本高等学校新聞コンクール4位（朝日新聞社主催）。昭和四十四年第20回西部日本高等学校新聞コンクール1位（朝日新聞社主催）。昭和四十五年に第21回西部日本高等学校新聞コンクール入選。

また、昭和四十五年の大分県学校新聞コンクール特選。昭和四十六年の第21回大分県学校新聞コンクールでも特選のめざましい活躍をしている。

〈佐伯豊南高校演劇部〉 昭和四十七年に第二十五回高等学校中央演劇祭優勝。昭和四十九年第二十七回高校中央演劇祭最優秀賞。

〈佐伯市内の新聞〉 昭和四十八年現在、佐伯市内で発行されている週旬刊紙には新佐伯・佐伯時事・週刊ポケット・鶴谷産報・南海新報・佐伯タイムズなどがあり、市民に親しまれている。

〈佐伯文化団体連絡協議会〉 昭和四十三年に佐伯市美術協会・佐伯書道協会・佐伯市写真協会の三団体が毎年公募する佐伯美術展の開催を円滑にするため合同設置したもの。役員は菅一郎（市美協）・森神紫陽（市書協）・岡田季幸（市写協）らである。

〈佐伯市文化振興会〉 昭和四十六年に発足。市内の三十七文化団体で組織されている。事業目的は舞台芸術、展示芸術の催物誘致・主催・共催・公演のあっせん、各種文化団体の育成についての企画など。会長は片山覚自。

以上、昭和四十年代の文化活動について、若干の資料[2]をもとにまとめたものである。

（五）佐伯のスポーツ

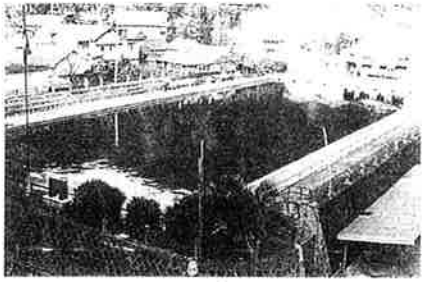
昭和四十年代 佐伯市の昭和四十年代のスポーツの一部を若干の資料[3]をもとに概観しよう。

のスポーツ

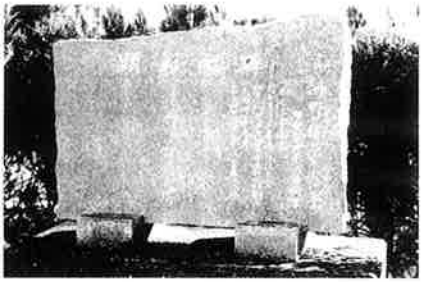
ここでの紹介は高校生・一般人を対象とした。

〈陸上〉 まず、陸上競技での活動の状況をみると、第1表のとおりである。注目されるのは鶴城高、佐伯農業高、豊南高の陸上競技の活躍は全国レベルの高い成績を記録していることである。また、女子の活躍も著しいものがある。

さらに、佐伯農業高出身の河野信子はアジア大会にも



50mプール



顕彰の碑（河野信子）

出場し、国際的なトップレベルの実績をあげている。

〈水泳〉　水泳では、鶴城高校の活躍がめざましい。活動の状況を概観すると、第2表のとおりである。その活躍は全国的レベルであることがわかる。

〈硬式野球〉　鶴城高校は昭和四十年（一九六五）九州選抜大会（沖縄）に出場し、山中投手のカーブを混じえた制球力の巧みさが功を奏し、優勝戦では小倉高を七―一で破り栄冠を獲得した。昭和四十六年、豊南高校チー

第1表　陸上競技の成績

年度	主な成績
四一	全国高校陸上で鶴城高校和久博至一〇〇㍍第二位、二〇〇㍍第三位、四〇〇㍍一位となる。
四二	鶴城高校陸上部・県体女子優勝。
四三	農業高校河野信子が九州高校陸上大会において八〇〇㍍で優勝する。（河野はユニチカに入社し、四十八年日独親善試合の四〇〇㍍で五十五秒三の日本新記録を出した）。
四五	鶴城高校陸上部・県体女子総合優勝。豊南高校宗茂は長距離走者として活躍し、大分合同マラソン・西日本延岡マラソンで優勝、高校駅伝では区間最優秀選手となった。
四六	鶴城高校陸上部・県体女子総合優勝。
四七	全国高校陸上で鶴城高校川田久美・走幅跳に六㍍二六で優勝。また日本女子選手権で五種に出場して優勝。（全日本ランク第一位）。
四八	鶴城高校陸上部・高校県体女子総合優勝。佐伯農業高校出身の河野信子、太平洋沿岸五カ国競技大会で、四〇〇・八〇〇・一五〇〇㍍で日本新記録樹立。
四九	第七回アジア大会で河野信子八〇〇㍍で優勝。

（『佐伯市史』・『佐伯市学校教育史要覧』・『佐伯鶴岡高校創立40周年記念』などによる）

第2表　佐伯鶴城高校の水泳部の活動

年度	主な成績
四〇	水泳部、全国高校水泳大会優勝（八回目）、四百メドレー優勝、山野内伸二二二百バタ優勝。
四一	末弘杯優勝、九州高校優勝、全日本高校（青森）二位、四〇〇リレー（三分五五秒五）日本高校新、国民体育大会（大分）高校男子総合優勝。
四二	末弘杯優勝、九州高校優勝、全日本高校二位。
四三	全国高校水泳選手権（広島）大会一五〇〇自由形二連勝　村田敏紀。
四四	全国高校水泳選手権（群馬）大会一五〇〇自由形三連勝　村田敏紀。全日本選手権大会　村田敏紀四〇〇㍍自由形優勝（高校新四分二一秒六八）。
四五	九州高校　浜野瑞樹　二〇〇バタ優勝、四〇〇メドレーリレー優勝。
四六	県体男子総合優勝。
四七	九州高校水泳大会　竹本マスミ二〇〇㍍平泳優勝。国民体育大会（鹿児島）竹本マスミ二〇〇㍍平泳優勝。
四八	末弘杯　竹本マスミ一〇〇㍍・二百㍍平泳優勝。高校県体女子総合優勝。九州大会　竹本マスミ二百二〇〇㍍平泳優勝、一〇〇㍍平泳優勝。

（『佐伯鶴城部活動史』・『佐伯市南海部郡学校教育史要覧』による）

ムは部員減少のハンディを克服して、秋の県大会に準優勝の栄を担っている。四十九年は鶴城高野球部は念願の甲子園出場を果たす。

〈軟式野球〉　佐伯バロンズチームは、昭和四十年の高松宮杯全国大会に出場し決勝戦まで進出、札幌チームと対戦し惜敗した。佐伯市チームは県体では四十六年・四十七年と、連続優勝している。

〈軟式庭球〉　佐伯市軟式庭球部では昭和四十二年には県体で決勝戦まで進出している。豊南高校女子チームは四十一年、県秋季新人大会において大鶴・安田組が個人優勝し、また県内女子総合選手権でも個人優勝、さらに高校県体において団体優勝している。

昭和四十四年、鶴城高校は全国大会予選で高野・高野健組が個人優勝し、続いて四十五年度も優勝。

〈硬式テニス〉　昭和四十一年県体には佐伯市チームが初優勝している。

〈バレーボール〉　昭和四十八年八月の第四回家庭婦人バレー大会に、鶴友会チームが出場し、県予選で優勝、ついで東京の全国大会に出場活躍して敢闘賞。

〈ソフトボール〉　西田病院チームの活躍はめざまし

く、昭和四十六年には全日本一般女子選手権に出場し、ベスト八まで進出した。また、四十七年には、県選手権大会で優勝し、国体予選には第二位となっている。

〈体操〉　体操競技は佐伯市では歴史の浅い種目である。鶴城高校が頭角をあらわしたのは昭和三十四年であるが、昭和四十年代にはいると、第3表に示すようにその活躍は県内だけではなく、全国レベルの活躍をしていることがわかる。

県体・優勝の西田病院女子チーム

〈弓道〉　昭和四十四年の第二十四回長崎国体（長崎市）では大分県男子チームが優勝し、全国制覇の壮挙をなしているが、その主力となったのは佐伯代表の選手であった。佐伯鶴城チームは昭和四十一年に男子チームが九州大会で国体優勝。また、四十三年には九州大会で中島秀樹が個人優勝している。さらに、四十七年には全国大会（岩手）で汐月由美子が個人第二位の優秀な成績をおさめている。

〈バトミントン〉　昭和四十二年の県選手権大会で、一般女子ダブルスの高瀬・中島組が準優勝し、将来に期待する種目である。

〈漕艇〉　漕艇は昭和四十一年の大分国体にそなえて

第3表　鶴城高校の体操部の活動

年度	主な成績
四一	大分国体で大分県チーム総合優勝。佐伯鶴城高校より山口・二宮出場。
	九州大会（長崎市）器械の部で男・女チームの優勝。
四二	九州大会で山口次男個人総合優勝。
四三	九州大会床運動で吉村俊英個人優勝。
四四	体操部、高校県体男子団体優勝。
四六	全国大会体操で女子チーム第七位となる。
四八	高校県体男女とも団体優勝。
四九	山脇恭二全国高校総体で跳馬で優勝。

（『佐伯市史』・『佐伯市南海部郡学校教育史要覧』・『佐伯鶴城部活動史』などによる）

発足した種目である。佐伯高校ではボート部を創設し、早くから練習を続けて、昭和四十年日田市で開かれた県競艇大会に出場して高校の部で優勝。翌年の国体には出場できなかったが、県予選や九州大会に参加し、四十二年にも参加し優秀な成績を残している。

〈レスリング〉　大分県におけるレスリング競技は昭和四十一年第二十一回国民体育大会が大分県で開催が決定したのを機会に昭和三十七年度レスリング協会を結成し、佐伯市において発足した。

昭和四十年代のレスリング活動状況をみると、第4表のとおりである。すなわち、佐伯農業高校レスリングの活躍はすばらしい。つねに県体で優勝を続けている。　いま、昭和四十一年（一九六六）第21回国民体育大会

佐伯農高選手の敢闘

第4表　レスリングの活動

年度	主な成績
四〇	佐伯農高レスリング県体優勝。
四一	佐伯農業高校レスリング県体優勝。熊本での九州大会では、佐伯農業高校が団体優勝。個人では森田、山下、久寿米木（以上佐伯高校）田村（佐伯農高）がそれぞれ優勝。
四二	佐伯農業高校レスリング県体優勝。
四三	佐伯農業高校レスリング県体優勝。インターハイフリースタイル　伊達治一郎二位。
四四	佐伯農業高校インターハイレスリングフリースタイル優勝（伊達治一郎）。県体優勝。
四五	佐伯農業高校レスリング県体優勝。
四六	佐伯農業高校レスリング県体優勝。
四七	佐伯農業高校国体レスリング、フリースタイルに伊達治一郎出場優勝。県体優勝。
四八	佐伯農業高校レスリング県体優勝。
四九	佐伯農業高校レスリング県体優勝。

（『佐伯市南海部郡学校教育史要覧』・『佐伯市史』・『佐伯鶴岡高校創立40周年記念誌』による）

（大分県）で佐伯市では市営球場が硬式野球、佐伯鶴城体育館がレスリングの会場ときまった。佐伯市の国民体育大会報告書[4]により大会の経過を紹介したい。

（昭和四十一年）

・十月二十三日　秋季国体開会式、大会会長トロフィー到着。各会場施設設営完了。野球、レスリング監督会議。

・十月二十四日　競技開始。野球午前八時、レスリング午前十時。天皇・皇后両陛下野球会場の佐伯球場に御臨席。観客野球七，四〇〇人、レスリング六〇〇人。

・十月二十五日　競技二日目。開始、野球八時、レスリング九時、観客野球七，八〇〇人、レスリング七〇〇人。

・十月二十六日　競技三日目。開始、野球十時、レスリング九時。秩父宮妃レスリング会場にお成り。レスリング一般フリースタイル表彰式。観客野球六，六〇〇人、レスリング八〇〇人。

・十月二十七日　佐伯会場競技終了。レスリング閉会式、野球決勝戦らびに閉会式。観客野球八，四〇〇人、レスリング八〇〇人。各会場及び周辺の施設撤収を始める。

・十月二十八日　秋季国民体育大会閉会式。大分県総合一位、天皇杯授与される。各会場借上備品返納。街頭装飾撤収。

（注）（1）『佐伯市史』（佐伯市昭和四十九年五月）

（2）『佐伯市史』・『妙見』（佐伯合同短歌会　昭和五十年）・『社会部紀要第15号』（大分県高等学校文化連盟社会部　昭和五十七年）・『佐伯市学校教育史要覧』（佐伯市現退職校長会　平成十八年十二月）

（3）『佐伯市学校教育史要覧』・『佐伯市史』・『鶴城開校70周年記念誌』・『佐伯鶴城部活動史』・『佐伯豊南創立50周年記念誌』・『佐伯鶴岡高校創立40周年記念誌』などより引用。

（4）『第21回国民体育大会報告書』（佐伯市　昭和四十一年十二月）

（続く）